



碧南ロータリークラブ週報

第2459回例会 平成21年6月10日(水)

- 会長 平岩統一郎 ● 幹事 長田 豊治 ● 会場監督 (SAA) 木村 徳雄 2008-2009年度 国際ロータリーのテーマ
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: http://www.hekinan-rc.jp/
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 長田和徳・岡本明弘・角谷 修・黒田泰弘



**Make
Dreams
Real**

● 齊 唱

ロータリーソング「我らの生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

法政大学大学院政策創造研究科 教授 坂本 光司 氏



米山功労者感謝状贈呈

奥田 雪雄君
平岩 辰之君
新美 惣英君
鶴田 光久君
杉浦 昌裕君
角谷 信二君



米山功労者マルチプル感謝状贈呈

森田 英治君

会 長 挨拶

会員の石川八郎右衛門さんから退会届が提出され過日の理事会で承認し受理しましたことをご報告申し上げます。

さて、昨日より梅雨入りしました。暦の上では今年も6月11日が入梅です。じめじめした、いやな時期がやってきました。反対にこの時期は緑が濃くなり風情がある時期でもあります。人間は、じめじめした梅雨になりますと早く梅雨明けして夏が来ないかと思ひ、猛暑の夏になりますと早く涼しい秋が来ないかと願ひます。梅雨の時期は、私としましてもゴルフで傘を差すのでいやな時期であります。

日本には四季の移り変わりがあります。この移り変わりの美しさが日本人にとって大切であると思ひます。数学者の藤原正彦さんは、日本人は文学・芸術・数学・理論物理等の分野で優れており、その最も重要な資質が美的感受性であると言っておられます。日本人は、芭蕉の句「枯れ枝に鳥のとまりける秋の暮れ」を聞きますと瞬時にその情景を思ひ浮かべます。この美的感受性を育んだのが繊細な美を頂くこの国の自然であります。従ひまして自然を美しく保つことこそが



平岩統一郎会長

最も重要な国策であると言っておられます。

今日の日本の自動車産業が発展したのは、コスト追求もさることながら、日本人の感受性が繊細な品質を作り上げ、それが隠れた競争力になったのではないかと思います。

幹事報告

- ・例会変更等は別紙幹事報告書の通りです。
- ・本日例会終了後、CLP 特別委員会を開催します。委員の方は出席をお願い致します。



長田豊治幹事

副幹事報告

- ・7月1日から9月30日までクールビズを行います。宜しくお願い致します。
- ・第3回次年度理事会を6月17日午後6時から大正館で開催します。
- ・第1回理事会を7月1日例会終了後に開催します。理事の方は宜しくお願い致します。



棚田道和副幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数77名(内出席免除者14名の内出席者10名)出席者64名

出席対象者 64/77名 出席率 87.67%

欠席者13名(病欠者1名) 前々回修正出席率 98.59%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 鈴木 並生君 クールビズが少し早すぎました。ノーネクタイで失礼します。
- 植松 敏樹君 皆様の浄財で成り立っています日本赤十字社愛知県支部の施設（八事日赤病院、中村日赤病院、血液センター）のすべての施設の監査が無事終了しました。ありがとうございました。
- 平岩統一郎君 会員の木村徳雄君の会社の創立50周年に出席しました。益々のご発展を祈念します。
- 木村 徳雄君 6月5日、当社創業50周年を行いました。平岩会長、黒田昌司さん、長田昌昇さん、鈴木昭洋さん、山田純嗣さん、鈴木並生さん、大塚智さん、山中寛紀さん、いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。
- 角谷 信二君 6月7日（日）平成21年度碧南市消防団ポンプ操法大会が無事終了しました。会員皆様にも多数ご出席賜り誠にありがとうございました。
- 清澤 聡之君 第16回浜風臘扇忌法要が無事勤まりました。全国・地元から、130名位の仲間が集いました。
- 森田 雅也君 今日の坂本先生を紹介します

クラブフォーラム

「自動車産業の行方」

法政大学大学院政策創造研究科 教授 坂本 光司 氏

入社希望が殺到する会社があります。従業員57名の会社です。2万人希望者があっても11名しか採用しません。どこが違うのか。何時の時代にも必ずこのような会社があります。

さて、今、自動車産業は非常に難しい状態にあります。これが元の状態に戻るか。戻らないのか。元に戻る問題は一時的な問題です。一時的問題に対して右往左往するのは自分達の経営方法



を反省しなくてはなりません。元に戻らない問題は産業そのものの基盤が根底から変わってしまっ
て売上が下がったとみるかです。もし構造的な問題であるのであれば茹でガエル現象に陥ります。
生き抜くために私達が変わらなければならない。今回は、50%以上は構造的な問題であると思
います。変わるべきはそこに依存・追随している地域経済、あるいは我社の経営です。よく目を凝
らさないと、この二つの峻別できないと思います。

今から、理由を3つ申し上げます。一つ目は、自動車産業は、昭和30年前後に登場しまして、
もう60年間君臨してきたリーディングカンパニーです。企業の寿命は30年と言われます。後半の
30年はガラスの上を歩いたのではないのでしょうか。大切なことは継続させることです。社員をき
る時は自分のハラを切る覚悟が必要です。60年も続いていることをよく見ることです。自動車産
業に両手両足をつき込んでいるのは問題であります。

二つ目は、自動車産業は、買換え需要と買増し需要であり、新規需要ではないのです。日本に
は自動車が多く走り過ぎています。保有台数は8,000万台です。現在の日本の世帯数は4,400万か
ら4,500万世帯です。1世帯当たり2台近く保有しています。昭和45年から自動車が統計上でてき
ました。それ以前は一部特権階級のもので、その時の保有台数は0.2台でありました。その当時1
世帯4.5人、現在は2.6人です。今、自動車に乗れるのは2人もいないのではないかと思います。
自動車産業に起こっていることは景気のいたずらではありません。日本の人口はピークを過ぎて
います。現在1億2,700万人、50年後は9,000万人、2,100年は5,000万人、人口は減ってきます。恐
ろしい状況です。物産産業は厳しいです。ソフト、サービス、健康等にチカラをかけていくこと
が今後の方向性です。

三つ目は、自動車の姿、形が変わっていくということです。メカを満載した車になっています。
部品点数は2万から3万点です。ハイブリッドになればなるほど部品点数は減ります。部品別分業
生産をとっている部品は減ります。

今、一時的な問題と構造的な問題が同時にきています。むしろ後者であると考えます。ラッキー
な過去は再び訪れないのです。新産業は、例えば15名で女性の胸を作っている会社があります。
価格は30万円から80万円です。また、15名で人工骨を作っている会社があります。やりきれない
需要があります。弱者を支援する会社は日本にはありません。お年寄りに嫌われた企業に未来は
ありません。この辺が新産業の方向性ではないでしょうか。

次回例会案内

6月24日（水） 定款第6条第1節Cによる休会
7月1日（水） クラブフォーラム 役員挨拶